

自立 自ら動く
～創・思・鍛～

穂北の子ら

穂積北中学校だより

No.5

平成29年9月2日

文責 辻

2学期が始まりました！

生徒の元気な姿を見ることができうれしく思います。大きな怪我をするような事故もなく、2学期を迎えることができました。

この夏休み中も、中体連大会（結果は別紙参照）において、2つの競技が全国大会に出場したことをはじめ、各種ボランティア活動への参加、コンクールや科学の甲子園への挑戦、わたしの主張大会参加等、多方面で生徒が活躍する姿、挑戦する姿が見られました。

始業式の中で、校長先生からは、「土台作りの1学期」から、「柱を建て、（成果を）築く2学期」へというお話がありました。日常生活や授業、体育祭や合唱祭等の行事を通して、お互いを高め合い、学級全体のレベルアップを図ってほしいと思います。

始業式後の学級活動の時間では、この夏市から各教室に購入していただいた電子黒板を使って、担任が2学期に向けた願いや見通しを語りました。どのクラス・どの生徒にとっても、飛躍の2学期となることを期待しています。



夏休み後半、自転車と自動車の接触事故が2件ありました。自転車使用の仕方については、再度家庭でもご確認ください。自転車事故等に対応する保険に未加入のご家庭は、今一度ご検討ください。

[PTA 24 保険以外にも、お値打ちな損害賠償責任保険（一家族対象）が提供されていますし、自動車の任意保険に付加する方法等もあります。]

不審者に遭遇した時は！

不審者が、学校内に入ってきた時の対応について、職員の研修を行いました。相手がどのような動きをするかが全く分からない中で対応することの難しさを学びました。

警察の方から指導を受けたことは、① 相手との距離をとること。② 生徒が安全に逃げるための時間を自身の身を守りながら確保すること。の2点です。

以前、日本人で初めてアメリカのSP (Security Police セキュリティポリス) の資格を取られた方に、護身術について講演をお願いしたことがあります。この方も、とにかく「逃げる時間を確保する」ことを強調されました。間違っても「相手を捕まえよう」とか考えていけないと言われたことを記憶しています。

逃げる時間を確保するためには、相手の顔や目に向かって、何かを投げつける。持っている傘等を突き出すなどが有効のようです。今回のお話の中でも、手を取られた時や羽交い絞めされた時は、相手の足を思いっきり踏みつけ、相手がひるんだ瞬間に逃げるよう指導がありました。いざという時は、活かしてください。



雷鳴が聞こえたら！

8月22日の夕方、岐阜・愛知で多くの落雷がありました。実に7000弱の落雷があり、3件の火災が発生したことがニュースになっていました。

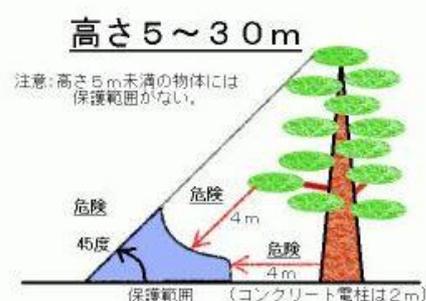
この時、学校にいたのですが、小さな雷鳴が聞こえたなと思ったら、激しい雨が降り出し、次の瞬間、強い稲光に、大きな落雷音が響き渡りました。

30分程の激しい雨の後、帰宅するために堤防を車で走っていると、南東の空に今まで見たことがない稲光を目にしました。「雷樹」というもので、地上から空に向かって光が走り、上空で光が枝分かれする現象です。こんな雷を今までに見たことがなかったので調べてみると、「雷樹」というもので、日本では冬の日本海の一部の地域で見られることがあるという珍しい現象であることが分かりました。

今回、岐阜・愛知を襲った雷雲は、スーパーセルといって、回転する継続した上昇気流を伴った非常に激しい雷雲群（天空の城ラピュタの竜の巣みたいなもの）で、マスメディアなどでは「超巨大積乱雲」と呼んだりするものでした。地表近くまで雷雲が下がっていたことで、「雷樹」が起こったようです。

こんな珍しい現象がみられるように、最近の気象現象はこれまでの経験則が通用しません。今年の夏は、特に雷も起こりやすくなっているようです。登下校時に雷鳴が聞こえたら、直ぐに丈夫な建物等に避難するようにしましょう。

近くに安全な空間が無い場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げ、4m以上離れた範囲（保護範囲）に退避します。



《落雷のステップ》

1. 大気が不安定な時に、局地的上昇気流によって、雷雲（積乱雲）が発生。
2. 積乱雲が成長するのが見えたら、数分後に落雷の危険がある。
3. 「ゴロゴロ」と雷鳴が、聞こえ始めたら、そこはもう落雷する危険がある。 避難が必要！
4. 雷は雨が降る前に発生し、落雷する。
5. 落雷の危険は、雷雲が消滅するまで続く。

9月1日は、「防災の日」でしたが、災害は、いつ、どこ、どのように起こるか分かりません。東海地方に、Jアラートが発令されることになるかもしれません。今までに経験のない状況の中で、判断し対処しなければなりません。

何か大きな災害が発生すると、多くの人は混乱して思考が停止状態になると言われます。そして、周囲の誰かが行動を開始すると、多くの人がその行動に同調するようになります。問題は、その人の行動がベストまたはベターな行動であるか？ということです。正しく判断し行動するためには、もしもの時を想定して、冷静に物事を考えられる時に、どう対処するか、何に気を付けて行動するかを決めておくことが重要です。報道が伝える事件や事故を基に、家族で交流してみてください。